



副甲状腺疾患 エキスパートフォーラム in 山陰

Program

日時 2018年 6月11日 (月) 18:50~20:15

会場 松江エクセルホテル東急 2階 アイビー
島根県松江市朝日町590 TEL 0852-27-0109

情報提供 18:50~19:00

レグパラ®錠 製品紹介

協和発酵キリン株式会社

一般講演 19:00~19:15

手術不能の嚢胞性病変による原発性副甲状腺機能亢進症
に対し、デノスマブとシナカルセト併用が有用であった一例

座長 鳥取大学医学部 病態情報内科学分野 学部内講師 伊澤 正一郎 先生

演者 鳥取大学医学部 病態情報内科学分野 松本 和久 先生

特別講演 19:15~20:15

「副甲状腺疾患の診断と治療」

座長 島根大学医学部 内科学講座第一 教授 杉本 利嗣 先生

演者 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
内分泌センター 部長 竹内 靖博 先生

当日はお弁当をご準備しております。

主催：協和発酵キリン株式会社

「副甲状腺疾患の診断と治療」

演者

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
内分泌センター 部長

竹内 靖博 先生

講演要旨

1. 原発性副甲状腺機能亢進症

原発性副甲状腺機能亢進症は女性に好発し、その有病率は0.1%にも達する。女性では骨粗鬆症の鑑別診断時に、男性では尿路結石を契機に原発性副甲状腺機能亢進症と診断されることが多い。また、正カルシウム血症性副甲状腺機能亢進症という病態の存在が明らかとなり、その診断手順について議論されている。いずれにしても、骨粗鬆症や尿路結石を認める場合は、腫大副甲状腺の局在診断が着けば手術が勧められる。しかしながら、高齢で診断される患者が増えており治療方針の決定に難渋することが多い。Ca感知受容体作動薬であるシナカルセトによる高カルシウム血症の改善と骨吸収抑制薬による骨密度上昇を目標とした内科的治療が普及しつつあるが、その効果を手術療法と比較検討することが今後の課題である。

2. 副甲状腺機能低下症

副甲状腺機能低下症の診断は、症候性の低カルシウム血症と副甲状腺ホルモンの低値を認める場合は容易である。一方、成人でのビタミンD欠乏症と偽性副甲状腺機能低下症の鑑別や、無症候性の潜在性副甲状腺機能低下症の診断はしばしば困難であり、適切な治療が遅れる理由になっている。副甲状腺機能低下症は活性型ビタミンD製剤により治療されているが、長期の治療に伴う腎機能低下や尿路結石症の発症率が対照群に比較して高いことが明らかにされている。その原因のひとつは治療に伴う高カルシウム尿症と考えられ、血清カルシウム値を低めに維持することが望ましい。また、本症では骨密度は高値であるが、骨折リスクはむしろ高い可能性が示唆されている。これらの臨床的課題を解決するため、副甲状腺ホルモンの自己注射療法が検討されている。